

岩手国際イノベーションコンベンション第2回実行委員会

日 時：令和8年9月10日（木）9時30分～

場 所：エスポワールいわて 2階 大中ホール

— 次 第 —

1 開 会

2 会長挨拶

3 新任委員の御紹介

4 議 事

議案第1号 役員の選任について

議案第2号 開催内容について

5 その他

6 閉 会

岩手国際イノベーションコンベンション第2回実行委員会 出席者名簿

【委員】

No.	区分	構成団体名	職名	氏名	備考
1	産業界	(一社) 岩手経済同友会	代表幹事	岩山 徹	副代表幹事
2			代表幹事	畠山 大	久慈 竜也
3		岩手県商工会議所連合会	会長	谷村 邦久	副会長
4		岩手県商工会連合会	会長	高橋 富一	
5		岩手県中小企業団体中央会	会長	藤村 文昭	
6		(一社) 岩手県工業クラブ	会長	小山田 浩之	
7		(公財) いわて産業振興センター	理事長	八重樫 幸治	
8		(地独) 岩手県工業技術センター	理事長	箱石 知義	
9		(一社) 岩手イノベーションベース (IIB)	代表理事	佐々木 慈和	代理出席 村上 勝俊 理事
10	教育機関	国立大学法人岩手大学	学長	山本 欣郎	代理出席 水野 雅裕 理事 (総務・戦略企画担当)・副学長
11		公立大学法人岩手県立大学	学長	鈴木 厚人	代理出席 佐藤 光勇 研究・地域連携室長
12		学校法人岩手医科大学	副学長	仲 哲治	代理出席 佐々木 健二 研究推進部研究推進課 産官学連携係長
13		(独) 国立高等専門学校機構一関工業高等専門学校	校長	小林 淳哉	
14	行政	岩手県市長会	会長	内館 茂	御欠席
15		岩手県町村会	会長	鈴木 重男	御欠席
16		岩手県	知事	達増 拓也	会長
17	金融機関・V・C	(一社) 岩手県銀行協会	会長	岩山 徹	代理出席 及川 崇 常務理事
18		(株)岩手銀行	代表取締役頭取	岩山 徹	代理出席 菅原 和宏 取締役常務執行役員
19		(株)北日本銀行	取締役頭取	石塚 恭路	代理出席 小寺 雄太 常務取締役
20		(株)東北銀行	取締役頭取	佐藤 健志	代理出席 佐々木 淳 取締役常務執行役員
21		岩手県信用金庫協会	会長	浅沼 晃	代理出席 藤原 修 事務局長
22		岩手県信用保証協会	会長	菊池 哲	監事
23		いわざん事業創造キャピタル(株)	代表取締役社長	西山 忍	
24		モリオカベンチャーキャピタル(株)	代表取締役社長	小川 淳	

【オブザーバー】

No.	所 属	職名	氏名	備考
1	インシグニア・ベンチャーズ・パートナーズ	創業者兼代表者	タン・インラン	御欠席
2	経済産業省東北経済産業局 地域経済部産業技術革新課	課長	武田 省吾	
		係員	西村 俊哉	
3	(株)日本政策金融公庫盛岡支店	支店長兼農林水産事業統括	岩崎 幹央	
4	(株)商工組合中央金庫盛岡支店	支店長	永田 圭	

【アドバイザー】

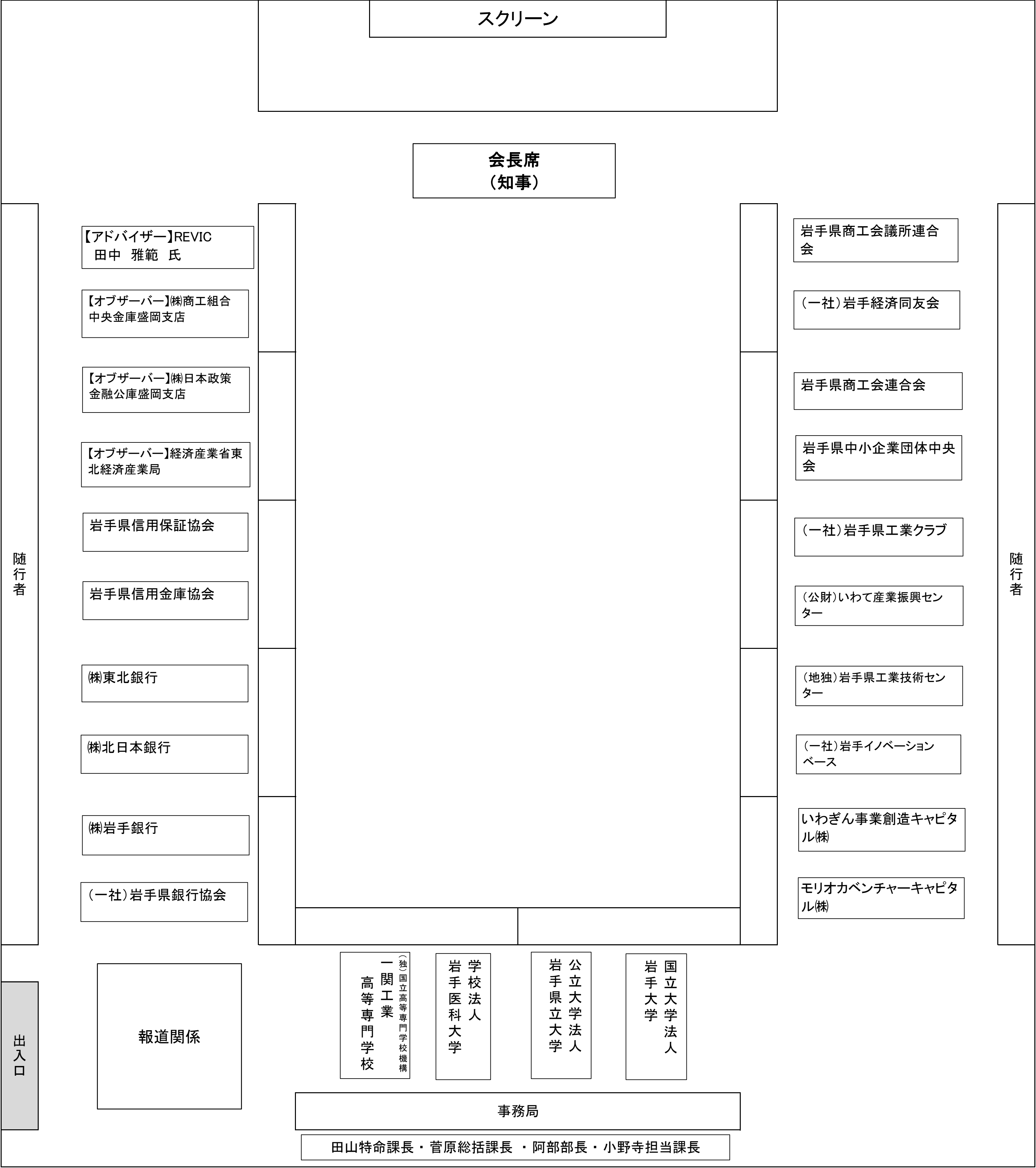
所 属	職名	氏名	備考
(株)地域経済活性化支援機構（REVIC）	マネージング・ディレクター	田中 雅範	

【事務局】

所 属	職名	氏名	備考
岩手県商工労働観光部	部長	阿部 博	
岩手県商工労働観光部経営支援課	総括課長	菅原 伴和	
同	中小企業振興担当課長	小野寺 将昭	
同	特命課長	田山 敬太郎	

岩手国際イノベーションコンベンション第2回実行委員会 配席図

エスポワールいわて 2階 大中ホール



【議案第 1 号】 役員の選任について

小山田 周右 監事が、令和 8 年 6 月 15 日をもって退任したことから、岩手国際イノベーションコンベンション実行委員会会則第 5 条に定める監事 1 名の選任を求める。

監 事 1 名

(委員の中から会長が指名し、委員会の同意を得て選任する。)

【参 考】

第 5 条 実行委員会に次の役員を置く。

- (1) 会 長 1 名
 - (2) 副会長 3 名
 - (3) 監 事 2 名
- 2 会長は、委員の中から互選により選任する。
 - 3 会長は、委員会を代表し、会務を総理する。
 - 4 副会長及び監事は、委員の中から会長が指名し、委員会の同意を得て選任する。
 - 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
 - 6 監事は、委員会の財務を監査する。
 - 7 役員の任期は、原則として選任した日からその翌年度第 1 回目の会議までとする。
ただし、再任を妨げない。
 - 8 役員の任期途中の退任等による後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

【議案第2号】

岩手国際イノベーションコンベンション（IIC）の開催内容

1 趣旨

国内外から参加する起業家、投資家等とのネットワークを構築することにより、スタートアップの成長機会の創出を図るため、スタートアップに関する国際会議を開催するもの。

2 メインテーマ

グローバル・パートナーシップによる地域イノベーション創出、スタートアップの成長

日本の地方である岩手には、いわて牛、米、日本酒、三陸の水産物といった農林水産業をはじめ、自動車・半導体、IT、ヘルスケアといった先端分野に至る産業基盤がある。また、岩手の産学官金は、連携して人材育成や新産業・新事業創出等を推進している。

このような豊富で優れた資源やネットワークを持つ岩手は、国境を越えて、起業家精神や新たな市場を持つ東南アジアをはじめとした世界とパートナーシップを構築することにより、スタートアップ創出や持続的なイノベーション創出、経済再生につながる可能性を秘めている。

岩手国際イノベーションコンベンション（IIC）は、スタートアップ創出、ビジネス連携、投資、そしてイノベーション創出に向けたグローバル・パートナーシップを、新たに岩手の地から作り出していく幕開けとなるものである。

IICでは、日本及び海外から起業家、投資家、企業が一堂に会し、地方からのイノベーションの創出やスタートアップの成長に向け、岩手と世界が中長期にわたり取り組むテーマについて、基調講演、ファイヤーサイドチャット、分科会、ネットワーキングを通じて、現状認識やあるべき姿の共有を図るとともにグローバルなネットワークを構築していく。

3 開催概要

- (1) 主 催 岩手県、岩手国際イノベーションコンベンション実行委員会
- (2) 共 催 インシグニア・ベンチャーズ・パートナーズ
- (3) 2026 年日・シンガポール外交関係樹立 60 周年記念事業（外務省承認済）

	※2026 年は日本・シンガポール外交関係樹立 60 周年に当たり、両国は、この記念すべき年をできるだけ多くの人々と共に祝い、そして両国の交流を一層促進するため、日本・シンガポール外交関係樹立 60 周年記念事業及び記念ロゴマーク使用事業を募集しているもの。
---	---

- (4) 開催日時 令和 8 年 10 月 29 日(木) 15:00～20:00
10 月 30 日(金) 9:00～17:00
- (5) 会 場 盛岡グランドホテル（岩手県盛岡市愛宕下 1-10）
- (6) 定 員 200 名
 - ① 国内外の起業家、投資家、企業、県内学生
 - ② 国内外の金融機関・ベンチャーキャピタル
 - ③ 政府関係者（国、在日シンガポール大使館、在シンガポール日本大使館等）
- (7) 参加費 10 万円/人

(8) 参加申し込み方法 特設ウェブサイト (<https://iwateiic.jp/>) からの申込

(9) 参加申込期間 令和8年8月7日(金)～9月30日(水)

(10) 内 容

- ・基調講演(国内外起業家、投資家等)、ファイヤーサイドチャット(座談会形式の対談)
- ・分科会(農林水産業、医療・ヘルステック、AIの3分野)
- ・交流レセプション
- ・スタートアップ等展示

4 プログラム(令和8年9月10日現在、今後の調整により変更の可能性があるもの)

【1日目】2026年10月29日(木)(15:00～20:00)

テーマ: 岩手が創る「世界に開かれたスタートアップ・エコシステム」を世界に発信する

シンガポールのベンチャーキャピタル、インシグニア・ベンチャーズ・パートナーズと岩手県が連携して取り組む「世界に開かれたスタートアップ・エコシステム」のビジョンについて、岩手から国内外に発信する。

さらに、岩手発のイノベーションや地域課題解決を目指すフロントランナーである起業家が、世界を見据えた取組やこれからの成長戦略をファイヤーサイドチャットで語ることで、岩手におけるスタートアップ育成・創出の可能性を国内外に発信する。

1	15:00 開会	13:30 ～18:00 スタート アップ等 展示
2	15:00～16:10 オープニングセッション 【登壇者】 岩手県知事 達増 拓也 インシグニア・ベンチャーズ・パートナーズ創業者兼代表者 タン・インラン	
	休憩(16:10～16:30)	
3	16:30～17:30 ファイヤーサイドチャット テーマ: 「(仮) 社会課題解決と世界を目指すいわて発スタートアップ」 概 要: 岩手を代表する起業家が集い、シンガポールのベンチャーキャピタリスト、チュン・アレン氏をモデレーターに、社会課題解決や岩手から全国そして世界に羽ばたくビジネスの成長ストーリーとこれからのビジョンについて語り合う。 モデレーター: インシグニア・ベンチャーズ・パートナーズ オペレーションおよび戦略開発担当バイスプレジデント チュン・アレン 氏 ①県内起業家: ㈱雨風太陽 代表取締役社長 高橋 博之(たかはし ひろゆき)氏 ②県内起業家: ㈱ヘラルボニー Co-CEO 松田 文登(まつだ ふみと)氏 ③県内起業家: ㈱北三陸ファクトリー 代表取締役 CEO 下苧坪 之典(したうつぼ ゆきのり)氏	
4	17:30～17:45 スポンサー企業からの告知タイム	
5	18:00～20:00 交流レセプション	

【2日目】2026年10月30日（金）（9：00～17：00）

テーマ：世界のスタートアップ・エコシステムの取組や世界を志す起業家を岩手から発信する

世界のスタートアップの育成や創出支援に最前線に取り組む銀行、証券取引所、企業の経営者やベンチャーキャピタリスト、日本と東南アジアの新たなビジネスを模索するフィンテックのスタートアップから、世界のスタートアップ・エコシステムの潮流やビジネスの動向について、講演やファイヤーサイドチャットにより発信しながら、世界に開かれたスタートアップ・エコシステム形成に向けた人的ネットワークを形成する。

さらに、農林水産業、医療・ヘルステック、AIの3つの分科会に、海外展開や成長を志向する起業家が登壇し、成長に向けた課題などを参加者と共有することにより、新たな連携や協業につなげて、スタートアップの育成・成長を推進する。

1 9：00～12：00 基調講演、ファイヤーサイドチャット (1) ファイヤーサイドチャット テーマ：「(仮)東南アジア進出の二つの道筋：商社とメーカーが描く成長戦略」 ①登壇者 エレコム(株) 代表取締役 社長執行役員 石見 浩一（いわみ こういち）氏 ②登壇者 丸紅(株) 常務執行役員 川邊 太郎（かわべ たろう）氏 (2) 基調講演 テーマ：「(仮) 日本企業の東南アジア進出を支援する新たな役割： エコシステムパートナーとしてのみずほ」 講師 (株)みずほフィナンシャルグループ 取締役会長 武 英克（たけ ひでかつ）氏 (3) 基調講演 テーマ：「(仮) 東証上場までの一貫した成長支援プラットフォームの構築」 講師 (株)東京証券取引所 執行役員 高橋 直也（たかはし なおや）氏	9：00 ～17：00 スタート アップ等 展示
昼食・ネットワーキング（12：00～13：00）	
2 13：00～14：30 分科会（①農林水産業、②医療・ヘルステック、③AI） 【第1分科会：農林水産業】 テーマ：「地域資源とテクノロジーによる次世代農林水産業の創出」 概要：岩手県の基幹産業である農林水産業について、スタートアップによる地域資源やテクノロジーを活用した新事業創出と、地方から世界への展開を語る。 ①県内起業家 (株)北三陸ファクトリー 代表取締役副社長 眞下 美紀子（まっか みきこ）氏 ②県内起業家 MOMIJI(株) 代表取締役 兼澤 幸男（かねさわ ゆきお）氏 ③県内起業家 (株)S o t t 代表取締役 高橋 舞衣（たかはし まい）氏 ④県外起業家 (株)WAKU 代表取締役 姫野 亮佑（ひめの りょうすけ）氏 モデレーター (株)雨風太陽 顧問 大塚 泰造（おおつか たいぞう）氏	

【第2分科会：医療・ヘルステック】

テーマ：「ヘルステック等ディープテックで拓く地域課題解決、グローバルイノベーション」

概要：地方が抱える医療・ヘルスケアの課題解決に向け、スタートアップによるヘルステック等ディープテックを活用した革新的な新事業創出や世界市場への展開を語る。

- ①県内起業家 ㈱東北医工 代表取締役 大関 一陽（おおぜき かずあき）氏
- ②県内起業家 ㈱クオントディテクト 代表取締役社長
西塚 哲（にしづか さとし）氏
- ③県内起業家 ㈱フィジオスバイオテック 代表取締役CEO
三木 一郎（みき いちろう）氏
- ④県外起業家 ㈱KOEDA 代表取締役 奥菌 徹（おくぞの とおる）氏
モデレーター ㈱地域経済活性化支援機構（REVIC）
マネージング・ディレクター
田中 雅範（たなか まさのり）氏

【第3分科会：AI（人工知能）】

テーマ：「AIによるイノベーションと産業変革、地域課題解決」

概要：スタートアップによるAIを活用したイノベーションがもたらす価値や産業変革、地域課題解決について語る。

- ①県内起業家 Defios ㈱ 代表取締役
近藤 鯛貴（こんどう たいき）氏
- ②県内起業家 ㈱サステナ 代表取締役 三井 康平（みつい こうへい）氏
- ③県外起業家 ㈱LIGHTz 代表取締役社長CEO
乙部 信吾（おとべ しんご）氏
- ④県外起業家 ㈱Athena Technologies 代表取締役
阿部 武（あべ たける）氏
モデレーター ふくりグループ代表／トポロジ代表取締役社長／
オリックス顧問（事業投資本部）
小原 毅也（おばら たけや）氏

休憩（14：30～15：00）

3 15：00～16：30 基調講演、ファイヤーサイドチャット

（1）ファイヤーサイドチャット

テーマ：「(仮) 日本発、東南アジアへ：グローバルなスタートアップ

エコシステムを担う次世代AI企業を育てる」

- ①登壇者 Fluid 共同創業者兼CEO Trasy Lou Walsh 氏
- ②登壇者 リブライパートナーズ㈱ 代表取締役
蛸原 健（えびはら たけし）氏
- ③登壇者 ㈱松尾研究所 田中 遼太郎（たなか りょうたろう）氏

（2）ファイヤーサイドチャット

テーマ：「(仮) 日本の資本と知見を活かす東南アジア展開戦略」

- ①登壇者 Tonik 創業者兼CEO Greg Krasnov 氏
- ②登壇者 Surfin 創業者兼CEO Yanan Wu 氏
- ③登壇者 ㈱りそな銀行 専務執行役員 中原 元（なかはら げん）氏
- ④登壇者 ㈱オリエントコーポレーション海外事業部門海外事業企画部
副部長 田中 大介（たなか だいすけ）氏

⑤登壇者 インシグニア・ベンチャーズ・パートナーズ 創業者兼代表者 タン・インラン 氏 (3) 基調講演 テーマ：「(仮)世界のスタートアップ最前線から見る 岩手・東北の可能性と期待」 講師 リブライトパートナーズ(株) 代表取締役 蛭原 健（えびはら たけし）氏	
4	16：30 閉会
5	16：30～17：00 ネットワーキング

5 スタートアップ等展示

県内スタートアップ等の展示を実施することにより、コンベンション参加者と展示者との交流やマッチングを図り、新たな連携事例の創出を推進するもの。

出展スタートアップ等（令和8年9月10日現在）

No.	区分	企業名等
1	県内スタートアップ、企業等	(一社) 岩手イノベーションベース
2		(株) S o t t
3		(株) 酒と学校
4		(株) Shiitakey
5		(株) N e x t I W A T E
6		磐井 A I (株)
7		(株) Imanect
8		Creo creators
9		(株) いおう化学研究所
10		(株) A to Z テクノロジー
11		滝沢ロボティクス合同会社
12		(株) クロス・クローバー・ジャパン
13		(株) 航和
14		(株) COCOHARETE
15		(株) プラスプラス
16	県内大学、高専等	岩手大学
17		岩手県立大学
18		岩手医科大学
19		一関工業高等専門学校
20		(地独) 岩手県工業技術センター

インシグニア・ベンチャーズ・パートナーズ

登壇者

タン・インラン 氏



創業者兼代表者

モデレーター

チュン・アレン 氏



戦略開発・オペレーション担当副代表



SINGAPORE - JAPAN
DIPLOMATIC RELATIONS
1966 - 2026

IWATE **IIC**

Greg Krasnov 氏

Tonik 創業者兼CEO

フィリピン初のデジタル銀行であり、東南アジアを代表するフィンテック成功事例の一つであるTonikの創業者兼CEO。

新興市場における消費者向け銀行業務およびフィンテック分野で20年以上の起業家経験を有し、「新興市場におけるデジタルバンキングは、十分な金融サービスを受けられていない消費者の信用需要を解決することで、大きな価値を生み出せる」との確信のもと、Tonikを設立。

2021年のサービス開始以来、300万人を超える顧客を獲得し、データとAIを活用した融資審査を基盤とする信用供与型の金融包摂モデルを構築。

2026年第1四半期時点で年間換算売上高6,000万米ドル超、2024～2025年にはローンポートフォリオを5倍に拡大。
さらに2026年、フィリピンで単独運営するデジタル銀行として初めてキャッシュフロー黒字を達成。収益の約99%を融資事業が占め、スケーラブルかつ収益性の高いデジタル銀行モデルを実証。





SPEAKER

Trasy Lou Walsh 氏

Fluid共同創業者兼CEO

シンガポール発のBtoB決済フィンテック企業Fluidの共同創業者兼CEO。

Fluid創業前は、BNPL（後払い決済）スタートアップであるAtomeのリージョナル・ゼネラルマネージャーを務める。

また、Uber Eatsアジア太平洋地域のレストランオペレーション責任者としても活躍。香港科技大学ビジネススクールでMBAを取得しているほか、ハーバード・ビジネス・スクールのエグゼクティブ教育プログラムも修了。

SPEAKER

Yanan Wu 氏

Surfin 創業者兼CEO

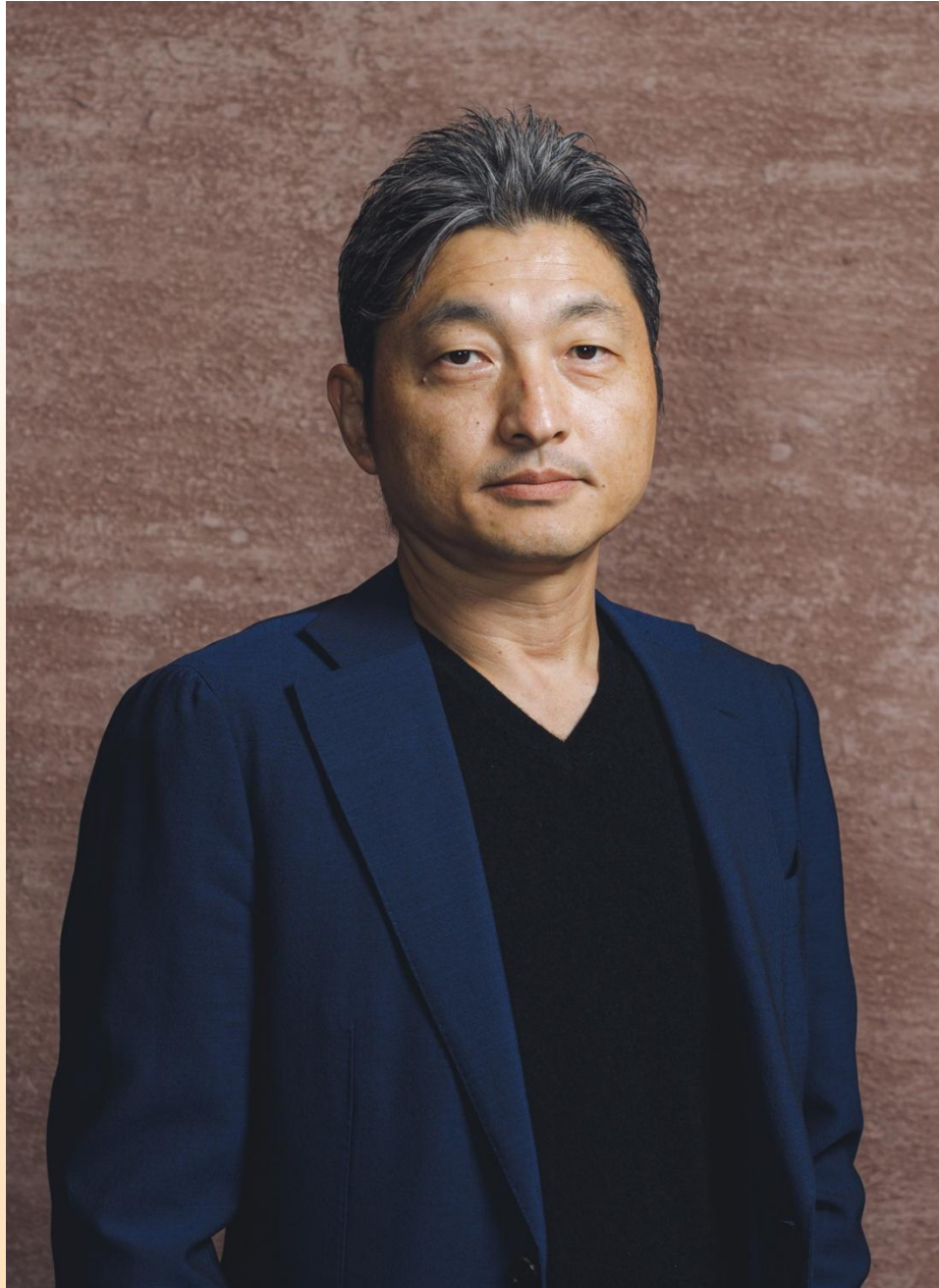
シンガポールに本社を置き、十分な金融サービスを受けられていない人々を対象としたフィンテック・ソリューションを提供するSurfin Meta Digital Technology (SMDT) Pte Ltdの創業者兼CEO。

キャリア初期には、IBM T.J. Watson Research Centerおよびロスアラモス国立研究所で研究科学者として勤務。

その後、金融業界に転身し、TD Bankに13年間に在籍してシニア・ポートフォリオ・マネージャーを務め、グローバル資産配分において300億米ドルの運用資産（AUM）を管理。

続いてCITIC-Prudentialでは、アジア地域のクオンツ投資部門責任者として40億米ドルのAUMを運用。2017年にSMDTを設立。





SPEAKER

TAKESHI EBIHARA

蛸原 健 氏

リブライトパートナーズ株式会社 代表取締役

岩手県盛岡市出身。シンガポール在住。

東南アジアおよびインドのスタートアップ投資に特化したベンチャーキャピタルのリブライトパートナーズを2008年創業。

代表的な投資先にはインドネシア最大の上場を果たしたBukalapak（初回ラウンドにてリード単独投資）、フィリピンにおける最大のスタートアップM&A売却事例となったCoins.Ph（初回ラウンド共同リード）、さらにインドのユニコーン企業群等。

1994年に日本の大手VC/PEファームであるJAFCOにてキャリアをスタートさせた後、30年以上に渡りスタートアップ投資、経営に携わる。

SPEAKER
HIROYUKI TAKAHASHI

登壇者⑤

高橋 博之 氏

株式会社雨風太陽 代表取締役社長

1974年、岩手県花巻市生まれ。青山学院大卒。

代議士秘書等を経て、2006年岩手県議会議員に初当選。

翌年の選挙では2期連続のトップ当選。

震災後、復興の最前線に立つため岩手県知事選に出馬するも次点で落選、政界引退。

2013年NPO法人東北開墾を立ち上げ、地方の生産者と都市の消費者をつなぐ、世界初の食べものの付き情報誌「東北食べる通信」を創刊し、編集長に就任。

2015年当社設立、代表取締役に就任。

2023年12月、日本で初めてNPOとして創業した企業が上場を実現するインパクトIPOとして、東京証券取引所グロース市場へ株式を上場。

2024年11月には、内閣官房 新しい地方経済・生活環境創生本部が開催する「新しい地方経済・生活環境創生会議」の有識者構成員に、2025年6月には一般社団法人日本ファームステイ協会理事に就任。





SPEAKER
FUMITO MATSUDA

松田 文登 氏

株式会社ヘラルボニー 代表取締役Co-CEO

ゼネコンにて、被災地の再建に従事、その後、双子の松田崇弥と共にヘラルボニーを設立。

4歳上の兄・翔太が小学校時代に記していた謎の言葉「ヘラルボニー」を社名に、福祉を起点に新たな文化の創造に挑む。

ヘラルボニーの国内事業、主に岩手での事業を統括。岩手在住。双子の兄。

Forbes JAPAN「CULTURE-PRENEURS 30」選出、第75回芸術選奨（芸術振興部門）文部科学大臣新人賞受賞。

著書「異彩を、放て。―「ヘラルボニー」が福祉×アートで世界を変える―」。

SPEAKER

YUKINORI SHITAUTSUBO

下苧坪 之典 氏

株式会社北三陸ファクトリー 代表取締役CEO

1980年岩手県生まれ。
2018年に同社を創業し、磯焼けで身入りの悪いウニを
独自技術で高品質化する「再生養殖技術」を北海道大
学らと産官学確立。

2025年Forbes JAPAN「食の未来を輝かせる25人」に
選出される。

2026年岩手県洋野町に、ウニ陸上養殖施設「UNI-
VERSE Site™ Hirono」を稼働。

日豪を拠点に、環境保全と産業発展を両立する
「ブルーエコノミー」の旗手として、世界規模でのウ
ニ供給網の構築と海の再生を牽引している。



SPEAKER
HIDEKATSU TAKE

武 英克 氏

株式会社みずほフィナンシャルグループ 取締役会長

1988年に名古屋大学経済学部を卒業し、日本興業銀行に入行。入行後は、国際業務、企画などに従事し、米州およびアジア・オセアニア地域での駐在を通じて海外ビジネスの経験を重ねる。

みずほフィナンシャルグループ グループ企画部長、戦略企画部長、米州副担当執行役員、アジア・オセアニア地域本部長、大企業・金融・公共法人カンパニー長、グローバルコーポレートカンパニー長などを歴任。2024年より取締役兼執行役副社長（代表執行役）、2026年より取締役会長に就任。

日本の大企業、中堅中小企業に加え、米州およびアジア・オセアニア地域のグローバル企業とのビジネス経験を有し、経営企画・戦略策定、国内大企業と海外ビジネスを統括するカンパニー長等の経験を通じて、グローバルビジネスに深い知見を持つ。



SPEAKER
KOICHI IWAMI

登壇者⑨

石見 浩一 氏

エレコム株式会社 代表取締役社長執行役員

1967年生まれ。

イリノイ大学 アーバナ・シャンペーン校 農業経済学 修士課程
修了後、味の素を経て2001年にトランスコスモスへ入社。

2002年に取締役、2006年に取締役副社長に就任し、同社の成
長を牽引した。2023年にエレコムへ入社し、副社長執行役員
に就任。2024年より現職。

「正道を行く」「経営は実行である」を信条に、グローバルで
の事業展開、法人向けソリューションビジネスの立ち上げ、戦
略的M&Aを推進し、同社の新たな成長領域の拡大に取り組ん
でいる。

顧客と従業員の満足度向上を経営の根幹に据えながら、パーバ
ス「Better being」の実現に向けて挑戦を続けている。



SPEAKER
GEN NAKAHARA

中原 元 氏

株式会社りそな銀行 専務執行役員

1990年に慶應義塾大学経済学部を卒業後、東京銀行に入行。

MITスローン経営大学院にてMBAを取得後、東京三菱証券、メリルリンチ日本証券において、債券資本市場業務や投資銀行業務に従事し、コーポレートファイナンスおよび金融法人向けアドバイザリー分野で豊富な経験を積む。

2016年にりそなグループへ参画。グループ戦略部および経営管理部において経営戦略・グループ運営を担当した後、ソリューションビジネス部、承継ソリューション営業部、国際事業部を担当し、法人ソリューションや事業承継分野の強化を推進。

2025年4月より、りそな銀行専務執行役員として国際事業部担当統括を務めるとともに、りそなホールディングス執行役としてグループ国際事業企画を担当。長年にわたり国内外の金融・資本市場および経営戦略分野に携わり、グローバルビジネスや企業価値向上に関する深い知見を有する。



SPEAKER
TARO KAWABE

川邊 太郎 氏

丸紅株式会社 常務執行役員
金融・リース・不動産部門 統括役員補佐
国内統括

1967年11月生まれ 東京都出身

1990年丸紅入社。主な経歴はロンドンでのトレーニーを含め、財務部で10年の経験を積み、2001年以降、金融・リース分野にて米国を中心に事業投資、会社経営に携わる。

2020年より執行役員 金融・リース事業本部長を務め、2026年からは国内統括として丸紅グループの国内市場における業容拡大と業績向上を推進。

趣味はゴルフ、将棋、読書。座右の銘は「No pain, no gain」



SPEAKER
NAOYA TAKAHASHI

高橋 直也 氏

株式会社東京証券取引所 執行役員



1994年慶応義塾大学経済学部を卒業、東京証券取引所に入社。

2013年株式会社日本取引所グループ（JPX）の発足後、メディア向けの広報担当、ETF やREIT の営業推進担当、上場制度の企画担当、人事部長を経て、2022年より株式会社JPX総研の執行役員として株価指数や情報サービスの企画・推進・管理運用を担当。

2026年4月より現職。

上場、上場推進、カーボנקレジット市場整備室担当。

SPEAKER

DAISUKE TANAKA

田中 大介 氏

株式会社オリエントコーポレーション

海外事業企画部 副部長

Honest Financial Technologies International PTE Ltd

取締役

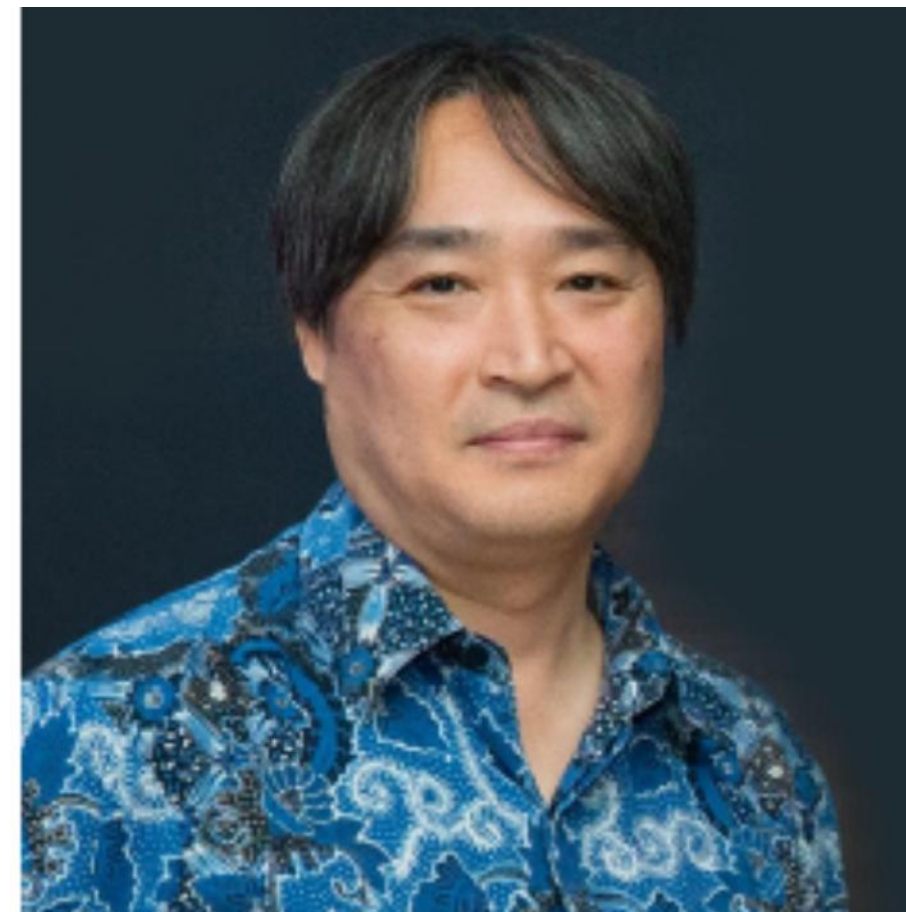
略歴 1974年 生まれ

1997年 みずほ銀行（旧第一勧業銀行）入行

2007年より10年超みずほFG及びみずほ銀行にて内部監査業務の企画・高度化に従事。企業統治・ガバナンスフレームワークに精通

2019年よりみずほ銀行にて海外リテール業務に従事。複数のスタートアップファイナンスディールを組成

2022年より現職（みずほ銀行より業務出向）。オリコの海外事業の企画、海外拠点の経営管理を担いつつ、Honest社への出資ディールを組成。同社の社外取締役として経営支援に取組中



分科会登壇者一覧

【第1分科会：農林水産業】

テーマ：「地域資源とテクノロジーによる次世代農林水産業の創出」

登壇者	(株)北三陸ファクトリー（洋野町）	代表取締役副社長	眞下 美紀子
	(株)S o t t（盛岡市）	代表取締役	高橋 舞衣
	M O M I J I(株)（大槌町）	代表取締役	兼澤 幸男
	(株)W A K U（福島県南相馬市）	代表取締役	姫野 亮佑
モデレーター	(株)雨風太陽	顧問	大塚 泰造

【第2分科会：医療・ヘルステック】

テーマ：「ヘルステック等ディープテックで拓く地域課題解決、グローバルイノベーション」

登壇者	(株)東北医工（盛岡市）	代表取締役	大関 一陽
	(株)フィジオスバイオテック（盛岡市）	代表取締役CEO	三木 一郎
	(株)クオントディテクト（東京都千代田区）	代表取締役社長	西塚 哲
	(株)K O E D A（宮城県仙台市）	代表取締役	奥蘭 徹
モデレーター	(株)地域経済活性化支援機構 R E V I C	マネージング・ディレクター	田中 雅範

【第3分科会：A I（人工知能）】

テーマ：「A Iによるイノベーションと産業変革、地域課題解決」

登壇者	(株)A t h e n a T e c h n o l o g i e s（東京都文京区）	代表取締役	阿部 武
	(株)サステナ（東京都板橋区）	代表取締役	三井 康平
	D e f i o s(株)（滝沢市）	代表取締役社長兼CEO	近藤 鯛貴
	(株)L I G H T z（茨城県つくば市）	代表取締役社長CEO	乙部 信吾
モデレーター	合同会社ふくり 株式会社トポロジ オリックス株式会社	代表 代表取締役社長 顧問	小原 毅也

本日（8月7日）から参加申込開始

参加のお申込みはこちら

<https://iwateiic.jp/>



その他の登壇者も現在調整中
決定次第、順次発表いたします

岩手国際イノベーションコンベンション実行委員会会則

(名称)

第1条 本会は、岩手国際イノベーションコンベンション実行委員会と称する（以下「委員会」という。）。

(目的)

第2条 委員会は、岩手国際イノベーションコンベンション（以下「I I C」という。）の開催を通じ、国際的なイノベーション拠点としての「世界に開かれた岩手」の可能性を国内外に示し、スタートアップ等への投資拡大、事業拡大など成長機会の創出及び地域経済の活性化に寄与する活動等を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 委員会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) I I Cの運営に関すること。
- (2) I I Cに関する連絡調整に関すること。
- (3) その他目的達成に必要なこと。

(組織)

第4条 委員会は、別表第1に掲げる構成機関、団体に属する者からなる委員をもって構成する。

2 委員は、構成機関・団体の代表者又はその代理として当該機関・団体のうちから当該機関・団体が指定した者をもって充てる。

(役員)

第5条 委員会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
 - (2) 副会長 3名
 - (3) 監事 2名
- 2 会長は、委員の中から互選により選任する。
 - 3 会長は、委員会を代表し、会務を総理する。
 - 4 副会長及び監事は、委員の中から会長が指名し、委員会の同意を得て選任する。
 - 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
 - 6 監事は、委員会の財務を監査する。
 - 7 役員の任期は、原則として選任した日からその翌年度第1回目の会議までとする。ただし、再任を妨げない。
 - 8 役員の任期途中の退任等による後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第6条 委員会は、会長が必要と認めたとき、会議を開催する。

- 2 会議は、会員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。ただし、委員からの委任状をもって、出席に代えることができる。
- 3 会長は、会議の議長となる。
- 4 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 5 会長は、必要に応じて、委員以外の者をオブザーバーとして出席させ、意見を求めることができる。
- 6 会長は、必要に応じて、委員以外の者をアドバイザーとして出席させ、助言を求めることができる。

(事務局)

第7条 委員会の事務を処理するため、岩手国際イノベーションコンベンション実行委員会事務局（以下「事務局」という。）を別表第2に掲げる機関・団体に置く。

2 事務局に関して必要な事項は、会長が別に定める。

(経費)

第8条 委員会の経費は、参加費、協賛金、負担金その他の収入をもってこれに充てる。

(監査)

第9条 委員会の決算については、監事の監査を経なければならない。

(会計)

第10条 会計は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

2 委員会の会計に関し必要な事項は、会長が別に定める。

(委員会解散の場合の措置)

第11条 委員会を解散する場合は、会議の議決を得なければならない。

2 委員会が解散した場合においては、委員会の収支は、解散の日をもって打ち切り、会長であった者がこれを決算し、監事であった者がこれを監査する。

(補則)

第12条 この会則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

1 この会則は、令和8年4月17日から施行する。

2 委員会の設立当初の事業年度は、第10条の規定にかかわらず、設立の日から令和9年3月31日までとする。

3 会長がやむを得ず必要と認めた経費については、委員会による予算の議決前に支出できるものとする。この場合において、当該支出した経費を収支予算案に含めるものとする。

別表第1（第4条関係） 委員会構成機関・団体

区分	構成機関・団体
産	（一社）岩手経済同友会
	岩手県商工会議所連合会
	岩手県商工会連合会
	岩手県中小企業団体中央会
	（一社）岩手県工業クラブ
	（公財）いわて産業振興センター
	（地独）岩手県工業技術センター
	（一社）岩手イノベーションベース（IIB）
学	国立大学法人岩手大学
	公立大学法人岩手県立大学
	学校法人岩手医科大学
	（独）国立高等専門学校機構一関工業高等専門学校
官	岩手県市長会
	岩手県町村会
	岩手県
金	（一社）岩手県銀行協会
	（株）岩手銀行
	（株）北日本銀行
	（株）東北銀行
	岩手県信用金庫協会
	岩手県信用保証協会
	いわぎん事業創造キャピタル（株）
	ミライドア Tohoku（株）

別表第2（第7条関係） 事務局機関・団体

機関・団体
（一社）岩手経済同友会
岩手県商工会議所連合会
岩手県商工会連合会
（公財）いわて産業振興センター
（一社）岩手イノベーションベース（IIB）
（株）岩手銀行
（株）北日本銀行
（株）東北銀行
ミライドア Tohoku（株）
いわぎん事業創造キャピタル（株）
岩手県